



# Ayano Hattori

微速 ゆれる葉、車の音

2022/4/13-24  
wed. sun.

映像展示 2022

主催:砂丘館〈観覧無料〉

砂丘館



# mikkyoz016

2022/4/26-5/8  
tue. sun.



そのゆっくりとした制作、公開という創造の過程を見る側として共有してきたmikkyozの映像／音を今年からは時期を変えて春に「展示」する。

砂丘館という自分が身を置く場所で見るとというのが、私にとっての見るということだから、事前にその映像をデータで送ってもらい、液晶画面で見るということは今はほとんどなく、あってもそれを見た経験として感じることはない。2012年以来毎年、そんな見ることを重ねてきた経験から生まれてきたある信頼のようなものが、この継続する展示になった。

きっかけは、けれど、あずかったデータをコンピュータ上で再生し、瞥見したことで、それは「見る」(具体的な場所で、見る、展示を見る)ことではなかったとしても、見たい…と感じさせる、なにかをはらんだ時間の感触だったから、そこから「展示」のはじまりが、はじまったのだった。

今回mikkyozに先立って展示するAyano Hattoriの映像を、上に書いたような意味ではまだ私は見ていないのだが、同じような感触はあった。

それはたとえば、Ayano Hattoriから手渡された紙にあった、このような言葉に。

「被災地からの帰路、車の中で眠りに落ちた。少なくとも2、3時間眠ったに違いない。目が覚めた時には、車は首都高の渋滞にいた。夕暮れ時だった。裾野を伸ばし、より空の高いところへと拡張する大都市は、目が眩むような垂直なコンクリートの森に思えた。津波の痕の何もない空っぽの水平線も、見えない放射性物質に覆われた穏やかでなだらかな山並みも、目にしたあらゆる平らな風景はまるで、もう遠く彼方だった。何も見なかったのではないかという思いがよぎった。」

見るとはなんだろう(そして見ないとは…)

展示を見て、感じ、考えたい。

(大倉 宏)

〈新型コロナウイルス感染防止のためマスクの着用をお願いします。〉

### Ayano Hattori

新潟県出身、幼少期をシンガポールで過ごす。武蔵野美術大学、ラサール芸術大学(シンガポール)、キングストン大学(イギリス 博士号取得)で学び、香港、沖縄での生活、制作を経て2018年文化庁芸術家海外研修制度でイギリスに滞在。2019年より新潟県に拠点を移す。

### mikkyoz

le + 遠藤龍

2009年より映像、音響を用いた創作活動を続けている。

### 会場

#### 砂丘館ギャラリー(蔵)

9:00-21:00 休館日:月曜、5/6

〈観覧無料〉

新潟市中央区西大畑町5218-1

tel.025-222-2676

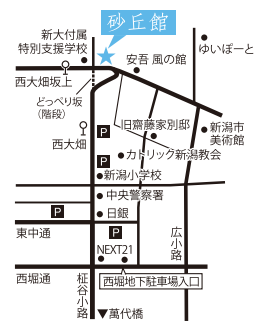
<https://www.sakyukan.jp>

新潟駅万代口より

浜浦町線C2系統 又は

観光循環バス

「西大畑坂上」下車徒歩1分



### 砂丘館

財団法人新潟県立美術館

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

※砂丘館には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。  
※新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。

〈私たちは砂丘館の自主事業を応援しています〉

愛国あられ株式会社

NSGグループ

ISHIKAWA

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

WIND

郷土の文化に親しむ会